



第11回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
LIVE配信：2020年8月30日（日）の13:00～14:30
シンポジウム11「男もつらいよ～男性医師の
多様性を知ることからはじめる働き方改革」

男性稼ぎ手標準の 働き方からの脱却を目指して

多賀 太（関西大学 文学部）

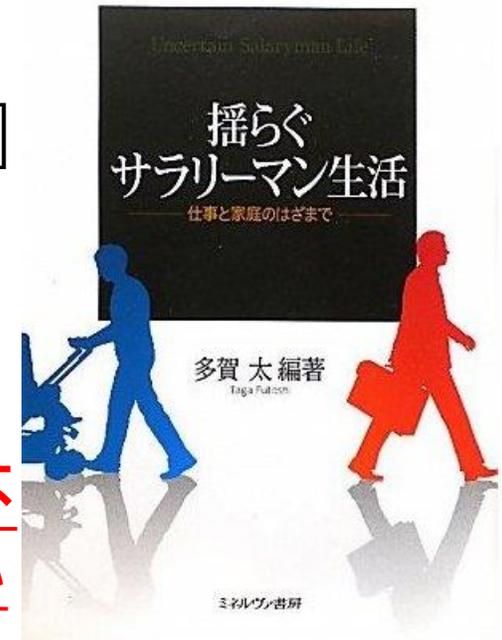
日本プライマリ・ケア連合学会 利益相反(COI)開示

演者名: 多賀 太

演者に開示すべきCOIはありません。

自己紹介 多賀 太(関西大学 文学部 教授)

- 専門は、教育社会学、男性学。博士(教育学)。
- 九州大学助手、久留米大学助教授、シドニー大学客員研究員などを経て、2009年より現職。
- 1990年代より男性の立場から男女共同参画に取り組む「メンズリブ」の市民活動に参加。
- 著書に『男子問題の時代?』『男らしさの社会学』『男性の非暴力宣言』(共著)、『揺らぐサラリーマン生活』(編著)など。
- 本日は、男性雇用労働者一般のワークライフバランスについて話します。医療現場については不案内なので、みなさんとの議論を通じて深めていければと思います。



目次

- 男性稼ぎ手標準の働き方とは？
- 女性の苦悩、男性の苦悩
- 男性稼ぎ手標準の限界
- 長時間労働誘発の主要因
- 取り組まれるべき、しかし難解な課題
- 男性にとってのワークライフバランスの実現

男性稼ぎ手標準の働き方とは？

- 家庭内性別役割分業を前提とした労働慣行
 - 夫が家族全員の生活費を稼ぐ責任を負い
 - 妻が家族全員の世話(=ケア:家事・育児・介護など)責任を負う
- 想定される「標準的」従業員
 - 「ケアレスマン」: 家庭責任(家族のケア)を免れた男性
 - 職場の都合に私生活を従属させる働き方が可能
 - ・ 長時間労働、不規則な勤務形態、長距離出張、典拠を伴う異動など
 - それと引き換えに家族を養う収入を得る

男性稼ぎ手標準のもとでの女性の苦悩

- 職場の都合に私生活を従属させる働き方ができないと・・・
 - 「一人前」になれない養成システム
 - 「一人前」と認めない職場文化
- +
- 既婚女性の家庭責任を前提とする社会的風潮や家族規範
- ↓
- 出産後キャリア継続・アップを目指す女性
 - ケアレスマン並みの働き方と家族のケア責任という
 - 二重負担のハンデを背負う

女性のキャリア形成： 「機会均等支援」と「家庭両立支援」のバランスが重要

| | | 家庭責任との両立支援 | |
|-----------------------|---|--|---|
| | | × | ○ |
| 男女 機会均等 キャリア形成の | × | <ul style="list-style-type: none"> ・当初から女性は「二流」扱い ・出産すれば退職 | <ul style="list-style-type: none"> ・出産すれば「マミートラック」へ ・キャリアは継続できるが、第一線から撤退 |
| | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・男性と対等なキャリアアップを目指すなら、家庭責任の回避が必要 ・家庭責任を担うならキャリア断念 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを産み育てながら男性と対等なキャリアアップ可能 ・ただし「男性稼ぎ手標準」の現状では「二重負担」の可能性 →家庭責任を負う労働者を標準とした労働慣行への転換が必要 |

男性稼ぎ手標準のもとでの男性の苦悩

● 共働き夫婦の増加、男性の家庭責任期待の増大



● 職場は男性に「ケアレス」である前提で働きを期待



- 家庭責任を本格的に担おうとすれば、既婚女性と似た状況に
 - 当然のように「ケアレス」な働き方でキャリアを積んでいく**男性同僚**に遅れをとることの焦り
 - プロフェッショナル・アイデンティティのみならず、「**男**」としての**アイデンティティ**にも脅威？

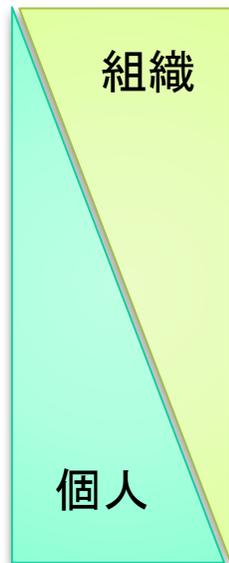
男性稼ぎ手標準の限界

- 女性が「ケアレスマン」並に働く機会を開いただけの「男女雇用機会均等」の否定的影響
 - キャリア重視女性の出産意欲の低下
 - 出産を望む女性の能力開発・発揮機会の制限
 - 家庭生活を重視する男性従業員の離反



- ▶ 家庭役割責任を負った労働者を標準とした労働慣行と養成システムへの転換が必要

男性雇用労働者のインタビューから得られた 長時間労働誘発の主要因



- 過大な業務量
- 長時間労働自体を善とみなす職場風土
- 金銭的動機
- 職業を通じた自己実現・成功欲求

…医師の働き方にどこまで当てはまるか？

取り組まれるべき、しかし難解な課題

- 「労働時間の短縮」と
「専門的スキルおよび生産性の向上」
（＝質の高い医療サービスの提供）
との両立
- 「家庭責任を果たす労働者の雇用・活躍機会の保証」
「仕事での頑張りへの正当な報酬」と
との両立

男性にとっての ワークライフバランスの実現

- 「男性中心に作り上げられてきた職業社会のあり方自体の問い直し」と「男性個々人による男としての人生の問い直し」を必然的に伴う
- しかしそれは同時に、ジェンダー平等と女性のエンパワメント、そして男性が失ってきた十全な人間性の回復につながるのでは？



ご清聴ありがとうございました